

平成30年度 北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜前期募集）

専門科目「学校臨床心理学」（1／4）

学校臨床心理専攻 学校臨床心理専修

以下の注意事項をよく読み、次頁からの問題に解答しなさい。

注意事項

- ① この試験問題の構成と配点は以下の通りである。

問題Ⅰ：〔2頁〕

臨床心理学，教育学，教育心理学，障害児教育学という4つの領域の中から1つの領域を選んで解答すること。

配点は100点。

問題Ⅱ：〔3頁から4頁〕

8つの〔設問〕の中から2つの〔設問〕を選んで解答すること。

配点は、1つの〔設問〕が50点，2問で100点。

問題Ⅰ，Ⅱの総計で200点満点。

- ② 答案が解答用紙に書ききれなくなった場合は、当該の解答用紙の裏面に続けて書くこと。

平成30年度 北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜前期募集）
専門科目「学校臨床心理学」（2／4）

問題Ⅰ．下記の4つの領域から1つの領域を選択し、解答用紙に解答しなさい。
(配点100点)

＜注意＞ 解答用紙の（ ）のなかに、選択した領域の番号を忘れずに記入
すること。

<領域>

1. 臨床心理学
2. 教育学
3. 教育心理学
4. 障害児教育学

1. 臨床心理学領域

臨床心理学で行う「査定」について、精神医学で行う「診断」との違いに触れながら論じなさい。

2. 教育学領域

教育において対話（ダイアログ）が持つ意義と課題について、あなたの考えを論じなさい。その際に次の2つの条件を満たすように論じなさい。

条件1：対話（ダイアログ）について、あなたが関心を持っている理論又は考え方を1つ以上挙げて論じること。

条件2：具体的なエピソード又は事例を1つ以上挙げて論じること（なお、挙げるエピソード又は事例については、必ずしも解答者が直接に経験したものでなくてもよい）。

3. 教育心理学領域

子どもを対象とした自殺予防教育を行う上で検討すべき条件を3点挙げて論じなさい。

4. 障害児教育学領域

障害のある子どもや特別な支援が必要となる可能性のある子ども、そしてその保護者に対して、早期からの教育相談が求められている。早期に教育相談を行うその意義と課題について論じなさい。

平成30年度 北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜前期募集）
専門科目「学校臨床心理学」（3／4）

問題Ⅱ．以下の〔設問〕1から8の中から、2つの設問を選択し、解答用紙に解答しなさい。（各50点、計100点）

＜注意＞ 解答用紙の（ ）のなかに、選択した設問の番号を忘れずに記入すること。

〔設問〕1．精神分析学は心を捉える複数の観点を持つが、それらの観点のうち、「局所論」と「構造論」について、次の2つの言葉を使い説明しなさい。

「エスがあったところに自我をあらしめよ」 「無意識を意識化する」

〔設問〕2．以下の用語について、簡潔に説明しなさい。

- ① 危機介入
- ② 絶対臥褥
- ③ ミラクルク・エスチョン
- ④ 心理的応急措置(PFA)
- ⑤ 神経発達症(神経発達障害)

〔設問〕3．不登校（登校拒否）に関する支援について、これに関する近年の政策動向および具体的な実践事例にも触れながら、その現状と課題について述べなさい。

〔設問〕4．教育における「指導と評価の一体化」とは何か。その概要を説明し、教育実践における課題について述べなさい。

平成30年度 北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜前期募集）
専門科目「学校臨床心理学」（4／4）

〔設問〕5. 次の①②について答えなさい。

① 次の空欄にあてはまる語句を答えなさい。その際、解答用紙にその組み合わせが分かるように書きなさい。

（ 1 ）とは、学習者が自らの直観に基づいて仮説を立てて、それを検証していくことを通じて学習を進めさせる学習指導法である。この方法は認知理論的な立場に立つ（ 2 ）によって提唱された。この学習指導法では、学習者は（ 3 ）な存在であると考えられており、学習すべき知識や概念が教師から直接与えられなくても、実験や議論を通して自ら発見できると考えられている。教師は学習内容を教える代わりに、学習者の興味を引くような課題と、学習者自身によって答えを発見できるような教材を与え、必要に応じて誘導的質問をしながら発見に導いていく。

（ 1 ）は5段階の基本プロセス、すなわち、問題の把握、仮説の設定、（ 4 ）、仮説の検証、まとめと発展、を経て進められる。日本で板倉聖宣（いたくら きよのぶ）が理科教育において提唱した（ 5 ）も（ 1 ）と類似した考えから発展したものである。

② 上記問題1の5段階の基本プロセスのうち、（ 4 ）について説明しなさい。

〔設問〕6. 次の空欄にあてはまる語句を答えなさい。

分散分析とは異なる母集団における何らかの変数の平均値の差を検定するときに用いられる分析方法の一つである。独立変数にあたるものは要因と呼ばれ、要因内の相違のことを（ 1 ）と言う。つまり、分散分析では要因内の（ 1 ）による従属変数の変化が問題とされており、これを要因の（ 2 ）と言う。二要因分散分析の場合、他方の要因の（ 2 ）の違いによってもう一方の要因の効果の大きさが異なることがある。このとき、2つの要因の間に（ 3 ）があると言う。

実験計画においては、何らかの操作をする群の他に加えて、その操作を行わない群、すなわち（ 4 ）を設定して効果を比較することが不可欠である。また、既存の集団に実験する場合（準実験）においては、特に（ 5 ）に気を付けないと、各要因の（ 2 ）や（ 3 ）の効果を適切に判断できなくなる。

〔設問〕7. 特別支援学校幼稚部における家庭との連携及び地域社会とのかかわりについて説明しなさい。

〔設問〕8. LD(学習障害)の特徴を説明し、合わせてその教育について説明しなさい。

